

# 「肝悪性腫瘍における腹腔鏡肝切除術後患者の予後の検討」に関するお知らせ

このたび、当院で肝切除術を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

## 研究の概要について

### 1. 研究の対象となる方

2007年04月01日から2024年12月31日の期間に埼玉医科大学国際医療センターを受診し、肝悪性腫瘍と診断されて腹腔鏡下肝切除術を実施した20歳以上の患者さんを対象としております。なお試験開腹や審査腹腔鏡のみで終了となった患者さん、開腹肝切除術に移行した患者さんは対象外とします。

### 2. 研究の目的

肝悪性腫瘍に対する腹腔鏡下肝切除術（以下 LLR）は保険収載後、全国で急速に症例数が増えています。通常の開腹手術と比べて低侵襲であることは理解されており、短期成績にては相違がないことも報告されてきていますが、長期的な検討は十分にされておらず、LLR だけでの肝癌術後の予後因子の検討は十分ではありません。当院は保険収載されてすぐに導入した経緯もあり、これらの症例を解析することで今後の治療に役立つ結果を見つけられる可能性があります。そのため、過去の症例のデータベースを用いて、再発、全生存といった予後に影響する臨床病理学的因素の検索を行う予定です。

これにより、肝悪性腫瘍に対して LLR を受けられる患者さんに対して、より安全で効果的な治療を行うための知見を得ることを目指しています。

### 3. 研究期間

病院長の許可後～2027年03月31日

### 4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後から、約1か月程度

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

## 研究に用いる試料・情報について

### 1. 試料・情報の内容

年齢、性別、肝炎ウイルス感染、アルコール多飲既往、肝機能 (ICG-R15 値、Child-Pugh 分類)、

腫瘍マーカー値、腫瘍の最大径、腫瘍の個数、被膜形成、肝細胞癌の分化度、脈管浸潤、肝内転移、Stage 分類、手術術式、出血量、輸血の有無、surgical margin

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学国際医療センターにおいて、研究責任者である渡邊 幸博が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

## 2. 試料・情報の取得方法

肝悪性腫瘍と診断された患者さんの検査を実施した際に生じた検査データおよび診療記録等を用います。

## 3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

- ・埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科 渡邊 幸博（研究責任者）
- ・埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科 合川 公康
- ・埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科 岡本 光順

## 4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学国際医療センター 病院長 佐伯俊昭

### お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはできません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科 渡邊 幸博

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話：042-984-4111（土日祝日を除く 8:30～17:30）

○研究課題名：肝悪性腫瘍における腹腔鏡肝切除術後患者の予後の検討

○研究責任（代表）者： 埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科 渡邊 幸博